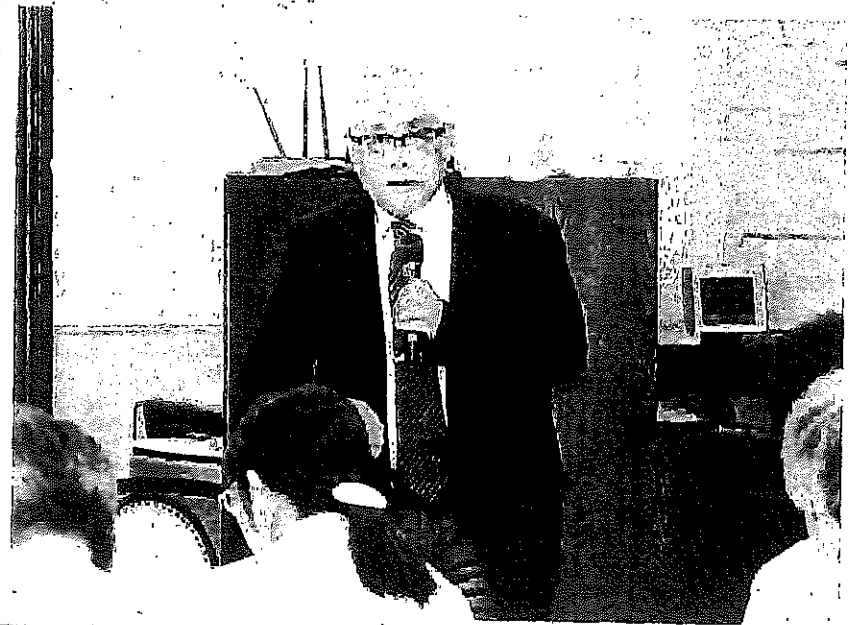


持続可能なインフラを

倉吉 生活排水処理の講演



鳥取県環境整備事業
協同組合（大川和彦理

事長）は21日、倉吉市
上井町1丁目のホテル
セントパレス倉吉で生
活排水処理に関する講
演会を開いた。下水道

や浄化槽などの生活排
水処理インフラの現状
や将来的に必要な整備
について、参加者が専
門家の見解に耳を傾け
た。

東京福祉大副学長の
喜多村悦史氏が「生活
排水処理改革と持続可
能なインフラ整備のた
めに」と題して講演。

生活排水処理整備の
将来について説明す
る喜多村氏

組合員や自治体の関係
機関など約50人が参加
した。

喜多村氏は、人口減
による税収減や借金依
存財政など国が抱える
問題から老朽化するイ
ンフラへの対応に注
視。下水道整備につい
て「将来に向け爆弾を
抱えている状態。更新
期には1人当たりの負
担が倍増する」と指摘
した。

また、下水道と浄化
槽のコスト面を図表で
比較。人口減地域では
下水道は割高になると
示し、水質基準はほぼ
変わらないと説明し
た。喜多村氏は「生活
排水処理は住民の責
任。将来を踏まえて整
備のあり方を見直すべ
きた」と力を込めた。

（田中美千留）